

## クレジット会社Q&A



### クレジット業界って どんな業界でどんな ビジネスをしているの？

クレジット業界では消費者への信用の元、消費者に対してキャッシング・ローン業務と立替払いを主に実施しています。クレジット業界でいうお金を貸す業務は、カード発行会社とカード会員との間の会員契約に基づき収益を生み出します。また商品やサービスの立替払いについては、カード発行会社とカード会員間の会員契約、加盟店とは加盟店契約を結び、カード会員が加盟店でショッピングをすることで発生する手数料で収益を得ます。

### クレジットカードを持つ メリットってなんですか？

消費者が手持ちの現金がなくても、消費者の欲しいものがあった時に購入できるのがクレジットカードのメリットです。消費者からすれば、現金が足りない場合でもクレジットカードを持っていれば購入できるのは魅力的です。しかも支払方法は一括払いや分割払い・リボ払いが選べるので、自分の経済状況に合わせて支払うことも可能です。



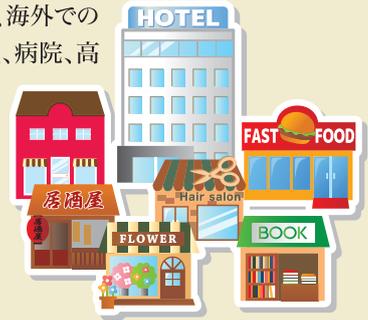
### クレジットカード会社の社員は どんな仕事をしているの？

#### ●営業部門

カード会員の募集、新規提携店(加盟店)の獲得、新規カードの提携、既存加盟店への提案やフォロー。カード以外の事業(各種ローン)では、同業他社も数多くある中、売上を獲得する為にも加盟店への訪問が中心になります。具体的には加盟店とのタイアップやイベント会場で自社ローンの獲得の営業活動を行います。この為、普段の営業活動を通じた人間関係が重要になってきます。その他部門として企画、審査、管理、業務、総務の計6部門で構成されております。

## クレジットカードってどこで使えるの？

国内でのお買い物はもちろん、海外でのお買い物から飲食店、美容室、病院、高速道路利用料金などご利用いただけます。最近では新聞料金、電気利用料、水道料金のお支払い、更にみなさんが普段使用している携帯電話の通話料金のお支払にも使われるようになっていきます。



### クレジットカード業界に 将来性はあるの？

2018年のクレジットカードのショッピング取扱高は約66兆円。消費が伸びていない中、前年度比+15%という高い伸びを示しています。これは消費全体において、クレジットを利用する割合が増えている、ということです。現在の日本のクレジットカード決済比率は、消費全体の約22%です。他国のクレジットカードの決済比率は、2017年の数値でアメリカが約46%、韓国に至っては約96.4%という高い数字ですので、日本でもまだまだ伸びる余地があると考えています。今後はスマートフォンを利用した決済もより広がっていくことが予想されます。低コスト化が進むことで、クレジットカードが使えなかったような中小の小売店などでも利用されるようになっていくでしょう。2018年に経済産業省が公表した「キャッシュレス・ビジョン」では、日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催される2025年までにキャッシュレス決済比率を40%とする目標を設定した上で、将来的には世界最高水準の80%を目指す「支払い方改革宣言」が提示されました。このことから、生活関連分野におけるクレジットカード決済の導入が引き続き拡大し、2020年度のクレジットカードショッピング市場規模(クレジットカード取扱高ベース)は、約75兆円に達すると予測されます。



## 日専連グループと日専連ジェミス

日専連グループは、クレジット事業を通じ地域との共生を図り、地域の小売商の繁栄及び地域に貢献しています。日専連では各地域ごとに日専連クレジットカードを発行し、その会員数は全国で約300万人です。カードデザイン及びクレジット販売システムは全国共通で、顧客への基本サービス内容はほぼ共通ですが、各クレジットカード発行会社の地域特性に合わせて、さらにきめ細かな顧客サービスを行っています。

日専連ジェミスは帯広・十勝を中心に、札幌・日高地区に支店、旭川に営業所を持ち、約7万人の会員の方々に地域に根差したサービスを提供しています。

#### 全国共通のカードデザイン



日専連JCBカード



ETCカード



#### 北海道内の日専連グループ

- 1 日専連ジェミス
- 2 日専連パシフィック
- 3 ニッセンレンエスコート
- 4 日専連旭川
- 5 日専連ニックコーポレーション
- 6 日専連釧路